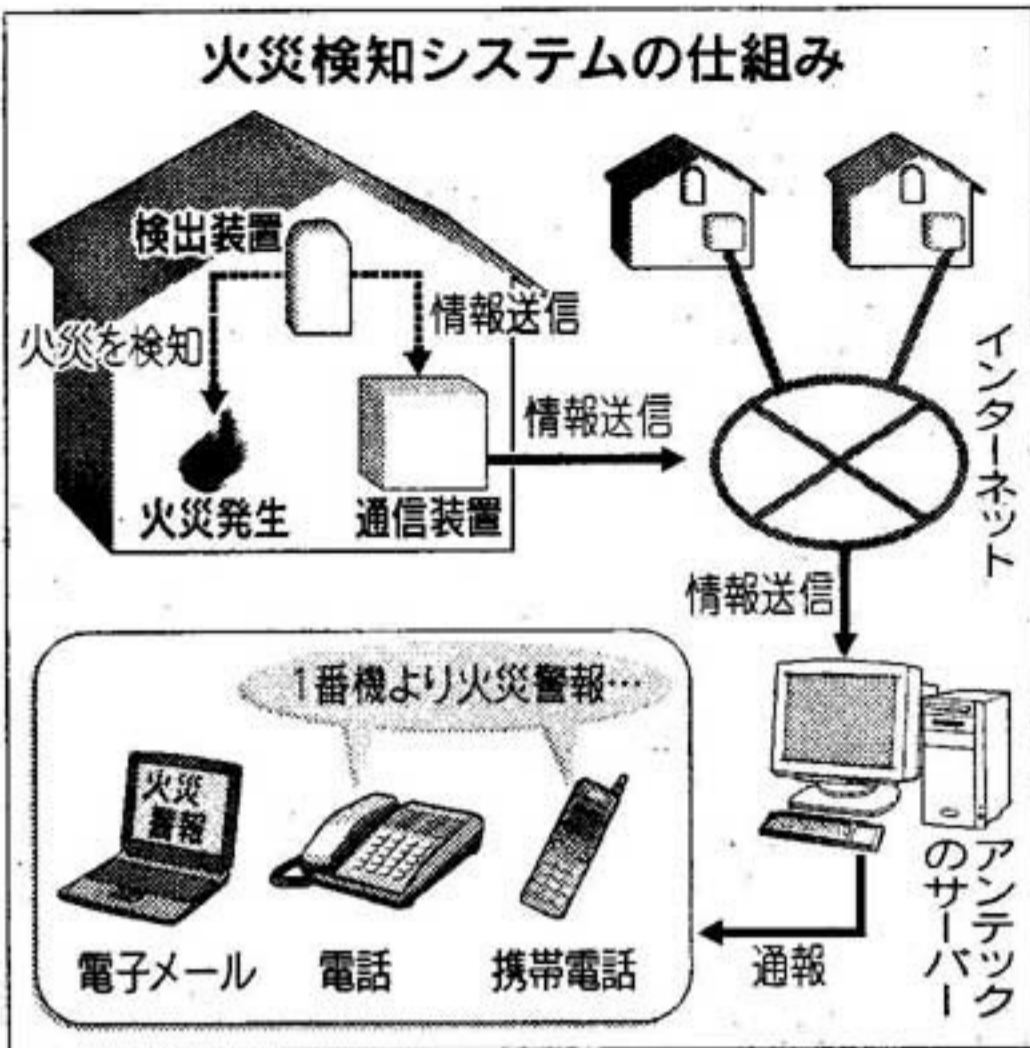


# 微小な炎、検知し通報

アンテックが システムが 電源切れもチェック



陶芸用電気窯メーカーのアンテック（岡山県 邑久町、末石建二社長）は微小な炎を検知し電話や電子メールで自動通報する火災検出システムを開発した。検出装置は通報装置と無線でつながり、バッテリー切れの状況を通報装置が自動で感知するなど保安能力が高い。ホテルや商店のほか、人の出入りが少ない寺院向けに初年度二百セットの販売を目指す。

検出装置は炎が出す紫外線等特殊センサーで検知し、半径五メートル以内で起きた長さ二センチ程度の炎にも反応する。検知した情報は無線で通報装置に送信。インターネットを使いアンテックのサーバー経由で利用者の携帯電話や固定電話を呼び出し、

音声ガイドで火災の発生を知らせる。電子メールでの通報も可能。

電源は太陽光による充電式で、通報装置が定期的に検出装置に自動接続

六十二万五千元、検出装置が同五万九千八百円。

一台の通報装置に最大五十台の検出装置をつなげられる。

アンテックは陶芸用の電気窯や電気ろくろのメーカー。窯内の炎の温度

しバッテリー切れや機器の不具合をチェックする。このため、装置の非作動で火災が広がる危険性が少ないという。

価格は通報装置が一台を一定に保つ技術などを応用し火災検出システムを開発した。末石社長は「検出装置を定期的に自動点検できるのが特徴。重要文化財の保守システムとして広く売り込みたい」と話している。

平成15年6月4日  
日本経済新聞